

ユニセフ講座 part 1 指定募金先「東ティモール」を学ぼう！報告（県協会作成）

9月9日（水）10時～12時、ユニセフ講座を開催しました。

会場は、キオクシアアイーナ804会議室、参加は、28名でした。

講師は、2024年に、ユニセフ東ティモール・スタディーツアーに参加されたみやぎ生協副理事長の河野雪子さん。「ユニセフとは」から始まり、生協とユニセフとのかかわりや東日本大震災時にユニセフから受けた支援、そして東ティモール・スタディーツアー報告という流れでお話されました。指定募金とは、国やプログラムを特定する募金で、東北と九州の生協が2014年から取り組んでいます。

東ティモールでの保健・栄養の分野の支援について、医療従事者の育成、医療機器の提供、栄養改善の指導をするグループの研修などを行なっていることをお聞きしました。医療の支援の他に、栄養改善（離乳食や調理教室）も行なって、地域を支えることに私たちの募金が活用されていることがよくわかりました。2029年までは継続して支援することになっており、これからの募金活動を広げていくことにつながる内容でした。また、日本発祥の母子手帳や農業の技術など世界に役立てられるスキルが多くあること、日本の子どもの幸福度が低いことなど、自国の足元を見つめることにも触れられ、今後の課題も考えさせられました。

会場で集まった募金は、6,400円でした。



河野雪子さん 東ティモールのストールを巻いて登壇



会場には 東ティモールの国旗も

参加者の感想より

- ・あらためて指定募金・東ティモールの状況を学ぶことができました。継続した支援が必要だと思いました。
- ・指定募金の意味がわかりました。日本にいと自分の不平・不公平を思ってしまうのですが、他国のことを知ると反省することがあると思いました。周囲にも伝えていきます。
- ・東ティモールの子どもの死亡率、日本との格差に衝撃を受けました。知ることから始めたいです。
- ・一時的な支援だけでなく、長期的な支援が大事だとわかったので、これからも協力したい。
- ・1964年まで日本が支援されていたこと、募金の使われ方がわかりました。東日本大震災の時、子どものための公園をユニセフに作ってもらったことを思い出しました。
- ・支援している国がどんな国なのか、募金はどのように使われるのか知る機会になりました。
- ・東ティモールは、資源も水もあるのに、農業や産業が育たないのはもったいないと思いました。
- ・国の政治が、国民のためになるといいなあと思いました。